

地方開催の歌留多大会報道記事

明治編 1～8

新聞切り抜き

忠実に記事を書き写しました。不明の文字は○または・・・で表示する

明治時代編

明治39年1月3日 小樽新聞

本日の歌留多會に就て

本日午後一時より夜に亘り小樽俱樂部に於て開催する歌留多會の入會券は昨年中既に賣切れとなりしが當日は會場の混雑を防ぐ爲め入會券所持無き者及び酒気を帯ぶる者は參會を謝絶する由にて歌留多の取り方其他に就ては東京歌留多會規則を參酌して會場に掲示すべく顧問田口工學博士の外各組に審判員を設くる筈なり又た來會者わ豫め爪を切り置くこと然る可しと云うふ

明治39年1月16日 小樽新聞

第二回歌留多大會

一昨日午後より小樽俱樂部に於て開催されし第二回歌留多大會は來會者の數こそ稍々前回に劣りたれ何れも斯道に趣味深き人々とて清興湧くが如く上の句、下の句兩派共數十回の競技を行ひしが上の句派選手競技に於て賣炭の三由氏は僅々一二枚の差にて手宮工場の田中氏に破られ遂に當日の月桂冠は田中氏に歸しいろは肉店寄贈の函入歌留多を獲たり下の句派井澤、堂後二氏の決戦にて遂に井澤氏最勝者たる譽れを得同じく函入歌留多を獲たり次に下の句派團體商店、銀行、余市組、無所屬の競技に於ては余市組（選手辻村、名畑、堂後、柴）一枚の差を以て強敵銀行派を破り遂に全勝の榮を博せり當日の余興としては鈴木氏の蓄音機數番有志の劍舞等あり十時頃散會せしが當日席上の協議にて成立せし社交俱樂部「小樽清遊會」に就ては次號紙上に記載す可し

明治39年1月17日 北海タイムス

岩見澤特報 ▲新年の宴會

客年は一般時局を鑑み總て質素を主とせる爲宴會の如き極て少かりしが本年は非常に多く今其重なる者を列記せば炭礦會社の新年及びカルタ會・・・

明治41年2月1日 北海タイムス

一昨日の歌留多會

一昨日當日當區北三條中正俱樂部に於て開催されたる百人一首歌留多大會は意外の盛況を極め遠く旭川、岩見澤、小樽等よりの來會者を合せて約百名に達し午前九時より午後五時まで雜然たる混戦なりしも午後五時より開始したる選手の決戦は光景頗る凄じく尤も目覺しきは東郷(小樽)永沼(鐵道部)なりしも勝は永沼に歸し先年小樽まで遠征を試み小樽新聞寄贈のメダルを受領せる檜野(銀行)は石井(鐵道部)に破られ漸次佳境に入りて遂に天下分け目の決戦となり井上(山鼻)は横島(道廳)の壘を突破し佐々木(道廳)に肉薄したるが己れは山の奥一枚佐々木はふり行くと外一枚の瀬戸際となるやふり行くにお手附けをなし山の奥を奪取せられたるため當日の月桂冠は遂に佐々木道廳一派の占むる所となれり因みに當日の審判者は態度に於て始終公平を欠きしとの非難ありたる如し

明治42年2月16日 北海タイムス

歌留多の大競技

既記の如く山田辯護士外數氏の發起により今回設立したる小樽歌留多會は本日午後五時より小樽俱樂部に於て發會式を擧げ續いて第一回大競技會を催ふす由なるが一昨日迄に各團體の出席申込百五十餘名に達し中には遠く岩見澤方面より出場するもあり會場狹隘にして到底之以上は入場し能はざるを以て昨日より以後の出席申込は一切拒絶し居る程の前景氣なれば本夕の盛況推して知るべく開會順序は左の如し

一開會の辭二競技三薩摩琵琶彈奏四福引五撰手豫選競技六撰手競技七賞牌授與八萬歲三唱九閉會

因に本會は男女老幼を問はず希望者の入會を許し毎年一回以上競技大會及冬季は月二回以上練習會を開き事務所は當分稲徳町山田氏方に置くといふ

明治42年2月23日 北海タイムス

二葉會第二回かるた會

来る二十七日（土曜日）午後五時より當區北三條西二丁目中正俱樂部にて第二回骨牌大會を催すと同日は岩見澤、小樽其他より斯道の豪の者來會する由なれば定めて目覺ましき勝負あるべく優勝者には金メダルを授與し又三人抜五人抜等にも賞品ありと會費は金三十錢にて來會希望者は狸小路いろは堂に申込みべし

明治42年3月2日 北海タイムス

二葉會の歌留多大會

當區二葉會の催しにかゝる歌留多大會は既報の如く去る二十七日午後七時區内中正俱樂部に開催さる來會者は岩見澤小樽旭川等より約五十余名、源平競技、二人抜、三人抜、選手競技等あり選手競技に於て蒼海、西海寺（旭川）の兩氏は山口、樫野（札銀）兩氏を見ん事破り之に道廳組の佐藤、成田兩氏の怪腕當りて遠の旭川の蒼、西兩氏外二組敗れ岩見澤組の松浦、吉田兩氏の新手對抗し敵を斃したる六人遂に持ち切れず松、吉の負けとなる此の勝負こそ當日の見物なりし松、吉の二氏は先に二組を斃せし蒼海、西海寺の二氏を斃し次いで三組を斃したれば都合五組を敗りたり夫れが脆くも敗れたるは怪我負と謂ふべきか次は當日の最後決戦にて各自奥の手を振つて苦闘し佐藤（札）一柳（札）渡邊（札）三氏の目覺ましき戦は開かれたり始め一柳、渡邊兩氏の對抗戦は唯一枚にて渡邊氏の勝ちとなり佐藤、渡邊兩氏對抗戦に於て當日の月桂冠は其何れにか歸すると片唾を呑んで待ちたり渡邊氏の札五枚佐藤氏八枚にて佐藤氏悠々迫らず遂に『砕けて物を』『知るも知らぬも』の二枚早鷹の如く抜きて佐藤静三氏（札）の勝となる

明治43年2月11日 北海タイムス

小樽歌留多會 は昨年山田辰乃進氏の主唱にて非常の盛況を告げたるか本年も十一日午後一時より色内亭に於て開催することに決し既定の出技者は百三十名なるも篤志家に限り出席を許すを以て百五十名に達する見込みなりと

明治43年2月14日 北海タイムス

小樽の 歌留多大會

小樽歌留多會主催の本年第一回競技大會は既記の如く十一日午後二時より同地色内亭に於て舉行したり競技者は泊瀬（五組）千早（三組）呑海（二組）漱（二組）敷島、三笠墨染の七俱樂部二十一組にて敷島は余市の団体なりし數十回の豫選競技に於て余市の敷島五回に三回敗れて資格を失ひ千早の第一精鋭も甚だ振はず泊瀬は階下の一室を借切りて選手の練習に充て揃の手拭を以て鉢巻を為し元氣頗る旺盛なりしが上の句は三笠對墨染にて墨染は最初より優勢を保ち三笠は三十枚位摺みたることもあり勝敗の數既に明かなるものありしが結局墨染の勝は呆気なき勝負なりき下の句は豫選の結果泊瀬の玄武隊と千早の雪組みの決戦にて千早は四枚を残し玄部の勝に歸したり散會したるは翌十二日午前四時にて非常の盛會なりき

明治43年2月16日 北海タイムス

歌留多大會

本社山口政民佐藤眠羊等發起に係る歌留多大會は来る二十日正午十二時より當區大通り西四丁目旗亭松月大廣間に於て開催することに決したり當日は小樽、岩見澤、余市其他の各団体及選手等の出馬ある筈にて老若男女を問はず來會を希望する由當日優勝者にはメダルを寄贈し會員一同に瓣當茶菓の饗應ある筈にて猶優勝者に對し記念撮影を為す由會費三十錢は當日持参すべしと因に餘興として薩摩琵琶ありと定めし盛會なるべし

明治43年2月17日 北海タイムス

歌留多大會

本社編輯同人の主催に掛る歌留多大會は来る二十日（日曜日）正午より本社隣り松月に開催するに付き本社より記念賞數個又各商店よりも寄贈の申込ありたり尚ほ同會は上の句、下の句と二手に別くる筈にて來會希望者は成る可く北海タイムス社第一工場内西海寺氏に申込みべく尚ほ當日戦士の守るべき守則は左の如し

- ▲競技者は第一に禮儀を守るべき事
- ▲對手方の札を抜きたる時は一枚送る事
- ▲取札は自他を問はず札に手を触るべき事

- ▲御手附は一枚送る事
- ▲各団体より審判者一名を充て厳格にすべき事
- ▲競技者は審判者の審判に對して絶対服従の事
- ▲審判者が取札同時と判断した時は流す事
- ▲競技進行の上一組に二名以上持札なきに至りたる時は他の札を一箇所に集めて競技を遂ぐる事
- ▲競技者は正常の理由ある時は何時にても申出て之か黒白を究む事を得
- ▲讀方は文句通り正當正告に誦讀し悪戯讀み又は不明の讀み方を為さざる事
- ▲競技の場合に於て競技者過半数以上の申込ある時は讀手の變更を為すべし
- ▲競技者は一名の對の方以外の札を取るを不得
- ▲競技者は對手方の感情を害するが如き舉動あるべからざる事
- ▲讀手及審判者は公平嚴正たるべき事
- ▲札の排列方法は競技者の膝頭より手前方へ排列するを許さず
- ▲其他は一般の慣習に據り之なき場合は審判者一同にて議すべき事

明治43年2月18日 北海タイムス

歌留多大會

明後二十日松月に於て催ふす本社編輯同人主催の歌留多大會は区内にても申込み續々あるが同日小樽より五団体相率ゐて臨場する旨昨日電話にて申込ありたり、因に同會へ昨日迄に寄贈されたるは左の如し 銀牌 數個 北海タイムス社、菓子折詰 三個 笹屋菓子舗、大坂毎日新聞発行小倉百人一首歌留多 五組 原田新聞店、蒔繪端書画 拾個 富貴堂、標準百人一首詳解 參部 維新堂、萬朝報購讀券 三枚 原田新聞店主中原金十郎、菓子澤山 山多印 菓子店

明治43年2月21日 北海タイムス

歌留多大會盛況

本社編輯同人主催の歌留多大會は豫報通り昨二十日松月に於て開催することゝなつたれば早朝より會場に押寄せ集まるもの頗る多く小樽の小倉俱樂部、芙蓉俱樂部、泊瀬俱樂部、岩見澤の梅ヶ枝俱樂部、札幌の麒麟俱樂部、堇俱樂部（婦人連）百々俱樂部、若葉俱樂部、木の葉俱樂部、小泉俱樂部、農大のM俱樂部又は二十五聯帶、道廳、裁判所、郵便局、税務所其他諸官公署學校銀行會社等より午前十一時半頃迄約九十名來集し同時よりそれぞれ練習に移りたるが何れも一騎當千の武者揃ひとて氣合、意氣込のキビキビしさたゞ愕くの外はあらざりけり本稿寄稿の時は未だ本舞臺に到らずして數ヶ所に於て御笑ひ半分の稽古のみなりき特にお可笑かりしは發起人の佐藤子迄が黄色な聲にて讀み上げて大に冷笑され居るなど随分滑稽なりき猶ほ午後三時頃は余市其他の地方より十數名到着の筈なり詳細は次號に盡すべく同日午後一時迄に同會へ寄贈品ありたるは左の如し
麦酒 四打 大日本麦酒會社 標準かるた 早川玩具店
○懷哺乳器一個徳用紙一個○○テン○一個 イ印○店
舶來洗粉 一打 今井洋物店 落花生 一斗 角三小路商店
改正瀛車時刻表、本はさみ 澤山 日ノ出屋旅館

明治43年2月22日 北海タイムス

歌留多大會の光景

△本道未曾有の盛會▽小泉俱樂部の老将△
▽小樽遠征軍の大捷△▽札幌麒麟の勇退ヴァイオリン△
△琵琶▽△浪花節▽

本社編輯局同人主催の札幌歌留多大會は江湖の賛成と区内各商店の同情とに依り一昨二十日旗亭松月の大廣間に於て開催せられ本道未曾有の大盛會大成功を以て無事閉會を告げたり當日は幹事等早くより會場万般を準備し居る内小樽二番列車にて戒嚴地帯に到着したるもの小樽の勇軍泊瀬俱樂部にして次で同軍の小倉、芙蓉、岩見澤町軍の梅ヶ枝、小樽軍の鶴の各俱樂部之と前後して當區の堇、麒麟、百々、小泉、M、木ノ葉其他無所屬を合して出馬するもの午後三時迄に二百名と註され會場狹隘を告げたり午後一時より三時頃迄隨所に亂戰稽古始まり『占めた』『待ったなコリャコリャ』『ドースル』の蠻聲漸く感高に聽ゆる同三時半山口主催者總代開戰を宣して小樽區斯道熱心家山田辰之進氏よりの祝電を讀み上げ抽籤に依り各団体の組み合せ出來愈々晴の戰端は開かれぬ互に陣勢を張り膝を交へて突く手抜く手の早業、鳴、隼に異らず互に敵の虚に乗じて實を衝かんと相呼吸するさま目覺なんと言ふ計なり

とは之れ上の句に於て札幌の小泉俱樂部方なり、下の句に於ては小樽の泊瀬、芙蓉、小倉各俱樂部、札幌の木ノ葉、岩見澤の梅ヶ枝幹事方の麒麟俱樂部第一、第三、第五と無所屬の二、等なりき、上の句小泉俱樂部は東京和泉俱樂部の選手たりし水口清旭氏と東京小倉の高關俊哉氏と大學の和田保崎豊田氏等中堅となり盛に東京風を吹かせて取りたるは特に異彩を放つたり一回二回三回と累戦する時屢々小樽軍に對し聲援電報來る曰く『優勢なるを悦ぶ努力最後の勝利を期せよ』又は『名譽は郷等の双肩に懸かれり振へ』『小樽の大選手小樽の面目を汚す勿れ各人奮勵せよ』『努力奮闘せよ』『小樽の名譽を發揮せよ』『小樽歌留多會の興廢此一舉に在り各員夫れ努力せよ』など東郷將軍擬の聲援もあり其内にて頗る振つたるは其團體より『オカチナサイツイテイルヨ』なりき扱て幹事方の麒麟俱樂部は札幌驛の公衆電報に托したる聲援の來電を聲高と讀み上ぐる様何處迄も幹事方の愛嬌を振り播きたるは罪なき所作なりけり、十數回戦を交へて陣勢漸く混亂に傾き扱ては遂に大混戦と變じたり應援の聲場内に響き渡り戦士いづれも茲所を先途と輸贏を争ふ態眞に双龍珠を争ふの大偉觀を示めせり上の句は小泉一組鵠一組、M一組、無所屬一組、聯隊一組なりしが時間の都合にて棄權歸宅のもの數多ありて遂に小泉と鵠の決戦となりて小泉に勝を占められ本社寄贈のメタル五個と各商店寄贈の賞品は同俱樂部の有に歸しぬ待つた下の句方に於ては何れも五人一組にて麒麟五組、泊瀬、芙蓉、小倉、梅ヶ枝、各一組、無所屬四組、董二組、百々二組、木ノ葉二組にて競技の秘術茲に盡して戦正に酣なる午後八時頃夕食を喫し休憩中余興として菊地氏の琵琶、佐藤發起人のヴワイオリン（追分節）幹事西海寺氏の浪花節等の面白き演奏ありて再び開戦となり結局下の句方に於て残りたるは泊瀬、麒麟の一、小倉、芙蓉なりき、キリンは先づ芙蓉に勝ち小倉と戦つて勝ち又泊瀬と渡りて復たキリン勝ちたり、次に泊瀬と小倉と戦ひて小倉斃れて棄權となりたり茲に於てか最後の決戦は小樽方の勇軍泊瀬俱樂部と當區麒麟俱樂部との三番勝負となり兩軍士何れも片裸脱ぐあり襦衣一枚のものあり揃の鉢巻手に唾して奮闘す『振へキリン』『自重すべし泊瀬』『其調子其調子』と審判員の制するを聽かばこう聲援の叫び耳聾せん計りなりき遂に小樽の泊瀬は第一回に一枚第二回に二枚を敵に睨み残さして月桂冠を占得し翌二十一日午前四時本社寄贈メタル及び賞品を授與して萬歳三唱解散せり△一等泊瀬俱樂部△二等麒麟俱樂部△三等芙蓉

明治43年3月3日 北海タイムス

利別村の歌留多大會

去る二十六日午後五時より十勝國利別村花月亭に於て有志主催の歌留多競技會あり折柄の大吹雪にも拘らず遠く釧路、帯広、止若、池田方面より參集したるもの三十三名之を見物するもの百數十名同村稀有の歌留多大會なりきされば各商店よりの寄贈品あり花々しき合戦十回を了はりたる時は翌二十七日午前二時頃なりき其結果は

△九点八木きゑ子△七点半谷熊讓一△七点天野寛、鹿瀬義雄、佐々木寛、八木かね子△六点半矢作恒造にして八木きゑ子は同村櫻屋の抱妓にて昨年漸く一本となりたる十六歳の少女なるが鄙の少女に似氣なき目怜しい妓にて毛脛男を凹ませたるには一同魂消たり右優等者より競技の結果更に天野熊谷八木きゑ子の三氏得て復た更に三人一騎打の結果遂に天野の勝利に歸したりと

明治43年3月19日 北海タイムス

小樽歌留多會

過般札幌に遠征して勝を占めたる小樽歌留多會は來る二十日一時より色内亭に於て第四回競技會を開催するが地方選手の來會を觀迎する由なれば札幌同好者は宜しく捲土重來すべし因に札幌麒麟俱樂部よりは十五名出席する筈なり

明治44年1月5日 北海タイムス

小樽歌留多大會

小樽歌留多界の最も有力なる一團體なる泊瀬俱樂部主催に係る競技大會は既記の如く今五日午後一時より堺町料理店色内亭樓上に於て開會せらるべし札幌岩見澤其他より遠征軍多數來場の由なれば最も盛觀を呈するならん本社小樽支局は選手競争最優勝者に對し例に依り美麗高尚の歌留多一組を寄贈することとせり

明治44年1月7日 北海タイムス

小樽歌留多大會

既報の如く泊瀬俱樂部主催に係る小樽歌留多大會は一昨日同町色内亭に於て午後二時より催され開會の辭及本社山口氏の祝電朗讀次に山田辰乃進氏の挨拶あり午後三時開戦翌朝八時無事閉會を告げたり當日一等を占めしは決誠俱樂部にて賞品タイムス小樽支局寄贈の美麗歌留多一組名譽メダルは同俱樂部の手に落ちたり

明治44年1月15日 北海タイムス

忍路青年會

同村桃内青年會は去る五日同村小學校に開催役員の選舉演説討論終りに歌留多會を催し觀を極む

明治44年1月24日 北海タイムス

札幌歌留多會

麒麟俱樂部の發起に係る第二回歌留多大會は來る二月二十一日紀元節をトし大通松月に於て開催する筈にて昨年如く地方選手は小樽岩見澤余市利別天鹽等よりも遠征する由なるが(歌留多)は昨年と同様なるも本年は層一層盛會なるべしと因に本會は下の句のみにて上の句は追つて開催すべし

明治44年3月1日 北海タイムス

留萌の歌留多大會

豫報せる第三回留萌歌留多大會は同好の中堅たるモンペー俱樂部の主催により昨二十八日午後六時旗亭見はらしに開催されたり先づ會場の入口には大國旗を交叉し内部には悉く萬國旗を張廻らして新聞記者席、參觀人席、男子席、女子席の仕切りを為し其中央に明け放したる大廣間を競技場に充て別室には寄贈賞品を山積配列しあるなど一糸亂れず整理の行届きたるは幹事の盡心察し得られて見るから快かりし此夜會するものハイカラあり學生あり奥様あり前垂ありて無慮八十名を超へぬ是れより先増毛町及各部落より來集の戰士等入交りて豫備競技に花を咲かせ一同茶菓折詰の質素なる饗應に腹鼓みを打ち愈上の句の本競技に移るや龍驤虎搏激烈の戦鬪數番を経て十人抜き優勝の月桂冠は遂に渡邊愛子夫人(當町渡邊醫院)の手に落ち本社寄贈の新聞購讀券をはしめ山の如き賞品を收受し夫れより休憩後下の句本競技に入りては戰士の數殆ど上の句に倍し之亦數十番の花々しき手合せあり見事十餘人を抜ける名譽の勝利は當町齊藤炭礦事務員橋本久藏氏の占むる所となり本社寄贈のメダル並びに新聞購讀券を始め堆き迄に寄贈されたる賞品を得たれば一同の拍手喝采暫しは鳴りも止まず其外二等より五等迄夫々授賞し終りて數十番の源平競技あり後橋本氏の薩摩琵琶「城山」の素謡あり蓄音機其のほか種々なる余興を演じて無事散會せるは鷄鳴曉を呼ぶ頃なりし
(廿九日留萌支局報)

明治45年1月15日 北海タイムス

かるた會

様似村にては去る九日午前九時より神田商店にてかるた大會開催集會者四十名盛會なりしと

明治45年1月18日 北海タイムス

小樽歌留多大會 多分來る三十日

小樽歌留多界は漸く活氣を呈し來り毎夜各所に於て練習戦行はれつゝありて各團體委員は一昨夜幹事長山田辰乃進邸に會合し大會開催準備及び競技方法に關し協議せるが期日は二十七日との説あるも本社の確むる所に依れば未だ同日に決定せし譯にあらざり團體の多數は來る三十日即ち孝明天皇祭當日こそ然るべしとの意嚮を有するを以て多分同日を以て開會さるることとなるべし因に本社は例年の如く本大會の最優勝團體に對し三組木杯二個を贈呈すべし

明治45年1月25日 北海タイムス

小樽 上の句大會 廿七日小樽俱樂部に於て

小樽歌留多會は來る三十日大會を開催するに決定せるは本紙既報の如くなるが尚同區に於ける墨染、三笠剛俱樂部發起となり北海上の句歌留多會を組織したり本會は斯道の革新と發達を計るを目的とし毎年二回以上大會を開き特に歌留多は東京朝報社發行の「標準かるた」を

使用する筈なり而して第一回大會を來る二十七日小樽俱樂部に於て開會し新加入者を盛んに觀迎する由會費は一名三十錢申込は二十七日正午迄とす而して既に出場に決定せし者左の如し（墨染俱樂部）山田、檜垣、松前、長崎、佐々木、鈴木（三笠俱樂部）板倉、加藤、高谷、久保、三野、北山、山田、齊藤、松月、山田（高松丸）外に札幌より十數名壽原商店、決誠、千早、小倉の三俱樂部よりも出場すべしと

明治45年1月27日 北海タイムス

岩内歌留多會

岩内には従來青年の組織せる小倉會といふありしが本年更に別隊の青年團より成る天狗會と稱する鼻の頗る高き一派現はれ來る二十七日雷電山麓なる旗亭福の家に於て龍驤虎搏の大試合を開催する由定めて盛會なるべし（支局報）

明治45年1月28日 北海タイムス

岩見澤の 歌留多會

岩見澤町梅ヶ枝俱樂部發起の歌留多大會は來る二月三日午後三時より幌陽亭に於て開催する由にて遠征軍は小樽、札幌、旭川、夕張、追分、歌志内、深川の各地よりも申込みある由なれば定めし盛會なるべし

明治45年1月28日 北海タイムス

浦臼歌留多會

來る三十日大祭日をとし浦臼館樓上に於て大會を催すべく發起者松本磯吉氏は昨今各同好者に招待状を發しつゝあり出場申込は廿八日限りと（浦臼通信）

明治45年2月1日 北海タイムス

留萌歌留多會

二十七日留萌町同好の組織になる叫天俱樂部の發起にて歌留多大會を古堂定吉氏方に開催上の句下の句源平競技豫選競技選手競技等數番の後餘興として琵琶劍舞浪花節など隠し藝を演じじ觀を盡して深更散會せりと（支局報）

明治45年2月2日 北海タイムス

札幌 歌留多大會

本社山口氏會長のキリン俱樂部發起に係る第三回歌留多大會は來る十一日紀元節の佳日をとし當區旗亭いく代庵に於て歌留多大會を開催の筈にて出場俱樂部は當區キリン俱樂部を筆頭に紅葉、雷、桃、杜鵑、若葉、龍田の各俱樂部にて地方よりの出場勇士は小樽、岩見澤、追分、室蘭、旭川の各地より又遠く釧路よりも出場申込ある由なるが競技方法は下の句にて五人を以て一組となし競技規則は前年と同じく會費は金四十錢にて申込は十日限り本社内キリン俱樂部宛申込まるべし尚本社及各商店より當日優勝者へ寄贈左のごとし
一メタル五個 北海タイムス社 一名刺千枚 西村活版所 一メリヤスシャツ函入上下 森新聞店
一木製かるた二百枚 佐々田貸本屋

明治45年2月2日 北海タイムス

岩内歌留多會

既報の如く小倉、獅友、天狗の三會より成る同競技會は二十七日午後七時旗亭福の家に於て開催し先づ各組より五人づゝ一組として競技を闘し勝技者を選抜繰上げ最終に各組よりの勝者と決戦をなせしに遂に小倉會の千早組に全勝を占られ本社寄贈の金メタルは同組の手に歸し万歳觀呼の中に散會せしは翌暁三時なりき

明治45年2月4日 北海タイムス

札幌歌留多大會寄贈

來る十一日開催の札幌歌留多大會へ左の寄贈品ありたり カステーラ五個、煉羊羹五個 笹屋菓子舗

明治45年2月5日 北海タイムス

浦臼歌留多會

去る三十日午後五時より浦臼館に開催出席者約五十名三對破りの優勝賞品は中央派の光富松衛氏最後の決戦勝賞品は鶴沼俱樂部の王子潔氏占得し餘興として琵琶は頗る喝采にて盛況を

極め閉會十一時半なりし（浦臼通信）

明治45年2月5日 北海タイムス

夕張歌留多大會

豫報の如く夕張炭山初音會の發起に係る歌留多大會一日午後六時より市街地二区一ノ谷樓に於て開催出席人員約七十余名追分より紅葉會十五名の勇士出場し何れも元氣横溢にして雌雄を争ふの状實に壯觀を極め散會せるは翌曉五時なりしと

明治45年2月7日 北海タイムス

札幌 歌留多大會

來る十一日に開催について當區は素より小樽を始め各地の勇將猛卒戦闘準備中なれば當日は無類の盛會なるべく各方面よりの寄贈も續出し居れるが又左の寄贈あり

一、湯呑五個高綱織乃丞 一、大籠五個南二條西四角丸新支店木村籠店

明治45年2月7日 北海タイムス

岩見澤歌留多會

三日午後六時會長伊藤氏開會の辞を述べ夫より合戦に移り先づ遠征各軍は小樽は決誠札幌はキリン追分は紅葉之に岩見澤の梅ヶ枝外四組にて愈々決戦となり、勝敗は四日午後二時十分決着一等小樽決誠、二等札幌キリン三等梅ヶ枝四等札幌キリン五等追分紅葉六等梅ヶ枝にて全く散會せしは午後三時頗る盛會なりき

明治45年2月9日 北海タイムス

江差歌留多會

第四回歌留多大會は江差歌留多會の主催にて來る十日新地町いげた屋にて開催の由

明治45年2月13日 北海タイムス

小樽歌留多會

北海歌留多會發起に成れる第二回上の句個人競技大會は來る十七日午後五時より小樽妙見町松の家に於て開催優勝者には賞牌を贈與する筈なりと

明治45年2月13日 北海タイムス

かるた大合戦 十六時間に亘る奮闘

麒麟俱樂部主催の第三回かるた大競技會は既報の通り十一日正午より中島遊園地西の宮支店に於て開催する筈なりしも地方團の集合遅れたるを以て午後一時四十分開會々長山口政民氏開會の辞に並ぎ歌留多に就て最も趣味ある談話あり夫より直ちに各團體、梅ヶ枝、北光、泊瀬、百々、雷、蛙勢、白虎、キリン、混成等の十團體廿五組を編成し午後二時より競技に移り各團體必死奮闘の結果キリン（轟）白虎、白瀬、梅ヶ枝、百々（桃）等の優勝選手中原の鹿を揉みに揉んで争ふ状壯快言ふ計りなく已にして夜三更戦正に酣となり石火雨如く互に渡り合ひ結局第一等はキリン（轟）二等白虎、三等泊瀬の結果を見るに到れり競技者は總て百餘人觀覽者約百名にして當日最も花々しき奮闘及び取組は優待に入りてより白虎が泊瀬と渡り合ひて（泊瀬一枚、白虎二十三枚）白虎の堀井、泊瀬の齊藤對となり堀井遂に六枚までに漕附けたると、最後一、二、三等の天下分目の決戦となりて四伐五伐互に眼の血走れるに聲援轟々高樓もゆるがばりにしてキリン（轟）泊瀬は一等の競技となり五枚を泊瀬に残してキリン一等賞に入り本社寄贈の銀メダルと各寄贈品の多數を授けられ万歳聲裡に散會せり因に當日かるた大會へ寄贈ありたるは金一圓五十錢南五、西六八早川寅一氏、中折帽數個南二、西二、小柳洋物店等なりし（若）

明治45年2月15日 北海タイムス

栗山歌留多會

去る十日午後六時より栗山郵便局樓上にて當地吹雪會主催第一回歌留多大會開催同好者三十餘名定刻前より盛んなる練習ありて定刻に到るや三人抜き合戦ありて愈々選手競技に移り各選手は奮闘力戦し月桂冠は終に今井永作氏の手落ち本社寄贈のメダルを同氏の得る所となり二等以下の勝者には賞品を授與し餘興として福引當あり頗る盛會午前十二時散會せり

（栗山通信）

明治45年2月15日 北海タイムス

釧路歌留多大會

釧路新聞社主催にて紀元節をトし釧路公會堂に於て歌留多大會を開催せしが小樽、旭川、十勝方面よりも選手來集頗る盛況を呈せり

明治45年2月19日 北海タイムス

上の句大會

小樽區醫師吉川宣藏氏等の發起に係る北海上の句大會は既記の如く十七日午後六時より妙見町旗亭松の家に於て舉行せるが來會者六十餘名あり個人競技のこととて普通より時間を要せるが翌午前四時半無事終了し非常の盛會なりし勝敗は墨染俱樂部の同志討ちともいふべく佐々木對山田が殆ど五分の形勢にて手に汗を握らしたるが最後に佐々木一枚山田二枚となり佐々木の持札讀まれし為め一等は佐々木と決定次に山田對樽垣の競技は山田前回の奮闘に疲れ居り遂に十數枚を残して敗北二等樽垣三等山田と決定本社寄贈の木盃及び小樽新聞の銀メダルは共に佐々木の手の中に歸せり

明治45年2月20日 北海タイムス

留壽都歌留多會

留壽都青年會主催の歌留多會は去る十五日午後四時より同地妙心寺説教場にて開會翌午前三時に至り閉會せり當日の競技者中上下句源平の三種に分ち選手の決戦は何れも目醒しき壯觀を呈したるが上の句にて大野對橋本は同點なりしが橋本氏先上りにて勝となり下の句にては大野高橋兩氏の戦争は殊に見物なりしが結局大野氏の三に對する四にて高橋氏の勝利となり規定に基き北海タイムス者寄贈の銀牌は同氏の手に落たり最後に五人抜き競技ありしが數日前小樽より來村せし物江氏の占る所となれり當日は眞狩狩太俱知安の各地より出席者ありて近來になき盛會なりし

明治45年2月22日 北海タイムス

追分歌留多會

勇拂郡追分紅葉會主催の下に追分俱樂部に於て十八日歌留多會開催札幌麒麟俱樂部の轟派室蘭の三室會岩見澤の梅ヶ枝の梅派及其他の各選手來會市街地有志者を加へ五十名彌治馬連中も加はり午後八時より徹夜輪〇を争ひしが勝敗決せず追分の紅葉成績甚だ振はず轟優勢にして翌午前十一時卅分迄繼續し紅葉は朝來頽勢を挽回し三等を得梅派二等轟一等を占め市街各商店の寄贈品あり紅葉會特製の銀メダルは轟の有に歸し當地未曾有の盛會なりき（追分通信）

明治45年2月27日 北海タイムス

苫小牧歌留多會

二十四日午後八時より市街地原方に於て青年會員等の歌留多會を開催したるが餘興には福引等ありて非常の盛會を極めたり（苫小牧通信）